

施策項目 12

グローバル人材の育成

施策の方向性 ～10年後を見据えて～

- 北海道に求められるグローバル人材像*を踏まえ、多くの高校生が海外へ羽ばたけるよう、グローバル人材育成の機運を醸成しながら、留学を目指す生徒の増加及び留学の促進に向けて、留学の受入先の確保など、総合的な支援を促進します。
- 小学校段階から系統的な英語教育を進め、高校卒業段階において、日常的なコミュニケーションができる程度の英語力を育成する取組を実践するとともに、英語以外の外国語を学ぶ生徒を支援する取組を推進します。
- 多文化共生社会の実現に向けて、全ての学校において国際理解教育を充実させるとともに、異文化交流や多様な価値観に触れる機会を創出するなど、生徒が道内大学の留学生や地域の外国人等と交流する取組を促進します。
- 積極的な ICT の活用により、本道の児童生徒が海外の子どもたちとオンラインでつながる機会を創出し、SDGs 達成への鍵である持続可能な開発のための教育（ESD*）における協働的な学びを充実させ、必要な能力・態度を育成する取組を推進します。

主な取組

- **留学機運の醸成及び高校生による海外留学の促進**
 - ・ 留学経費の支援の充実を図るため、ふるさと納税の PR を通した留学を支える機運の醸成
 - ・ 留学経験のある高校生をロールモデルとした事業の実施など、グローバル人材育成の好循環の実現
 - ・ 海外の教育行政機関との教育分野における提携の推進や提携した国・地域との信頼関係の強化
 - ・ 交換留学プログラムの提供や留学事例の紹介等、留学支援に係る取組の促進
- **外国語教育の充実**
 - ・ 小・中学校における目的や場面、子どもたちの興味・関心に応じた英語によるコミュニケーションを図る授業、高校等における言語活動の充実やパフォーマンステストの実施など、4技能5領域*のバランスの取れた英語力の育成に向けた授業改善の推進
 - ・ 学校種間で連携した研修の実施など、小・中学校、高校の系統的な英語教育の指導体制の充実
 - ・ 「CAN-DO リスト*」の児童生徒・保護者との共有や学習到達目標の達成状況の把握による指導や評価の改善・充実
- **異文化交流や多様な価値観に触れる機会の創出**
 - ・ 外国語を母国語とする ALT(外国語指導助手)や地域の外国人材等を活用した、他国の文化や考え方を理解する取組の推進
 - ・ 道内大学に在籍する留学生を派遣するなど道立高校における異文化交流などの機会を充実

関連する主なSDGsの目標



○ ICTを活用したオンライン交流の推進

- ・ 発声ややり取りのモデルを示したり、遠隔地の子どもたちと英語で交流したりするなど、小・中学校における1人1台端末の効果的な活用による指導の効率化や言語活動の充実
- ・ 交流相手校との時差を踏まえた同時双方向型での交流やメッセージ動画の交換など、高校段階における海外の高校生等とのオンライン交流の推進
- ・ SDGsの実現に向けて、異なる文化や習慣を持つ同年代の若者と意見交換を行うなど、高校における協働的な学びの実践

海外高校生等との オンライン交流



- ・ ICT 機器やインターネットを活用した授業改善の推進
- ・ 高校段階における海外高校生等とのオンライン交流の推進
- ・ 対面での交換留学を疑似体験できるオンライン交換留学の実施

【推進指標】

指標 <例示>	現状値	目標値
道内の公立高校等における留学者の割合		
中学校卒業段階で英検3級以上の英語力を有する生徒の割合		
高校卒業段階で英検準2級以上を取得又は英検準2級以上の英語力を有すると思われる生徒の割合		
「CAN-DO リスト」の学習到達目標の達成状況を把握している中学校・高校の割合		
英語の発信力に係るスピーキングテスト及びライティングテストの両方を実施している高校の学科の割合		



担当課 HP

●北海道に求められるグローバル人材像

北海道への誇りと異なる文化への寛容を身に付け、国際社会に貢献する高い志と広い視野を持って、地域や世界の課題解決に向けて主体的に取り組もうとする意思を持つ人材。(2016(平成28)年9月北海道「北海道におけるグローバル人材の育成に向けて」)

●ESD : Education for Sustainable Development (持続可能な開発のための教育)

現代社会の問題を自らの問題として主体的に捉え、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、身近なところから取り組むことで、問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらす、持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動。

●4 技能5 領域

英語教育における「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」の技能及び領域。

●CAN-DO リスト

英語を使って実際にどのようなことができるようになるのか、その能力を記述したリスト。